

地域母子保健の担い手として



開業助産婦 番内和枝

地域保健法が今年の4月から実施されることとなり、これまで都道府県（保健所）が主体となって行われた事業が市町村に委嘱されることになりました。中でも助産婦の専門分野である母子保健事業のほとんどは、市町村が実施主体となりますが、そのスタッフとして、助産婦職が入っていないばかりか、助産婦学校が廃止されるような動きもあって、後輩助産婦の育成面でも危機感が持たれています。

このような状況の中で、私は出身地にもどり、地域の中で女性のライフサイクル全体に関わる仕事をしたいと考えて開業しました。施設内での限られた仕事へのジレンマに対する抵抗と、地域の中で助産婦としての仕事の幅がどの程度広げられるかという挑戦でもあり、また昔の助産婦のように「私の町の助産婦さん」になりたいという思いがあったからです。

しかし、地方にもどってみて、中央で考えていた以上に、行政にも一般の人々にも助産婦の仕事が理解されていないことに驚きました。そして「東京まで行って勉強してきて、なんでそんな仕事（助産のこと）をしているの？」「病院があるのになんで今更助産院なの？」などの言葉どころか、開業届けを出しに行った保健所では助産院を知らない若いスタッフの対応、また一部の産婦人科医師の無理解という状況にも大きなショックを受けました。

かつては母子保健事業の担い手として、助産婦職を抜いては考えられないほど、助産婦

は大きな働きをしていましたし、社会的な評価も大きなものではなかったかと思うのです。それが何時の間にか助産婦は、分娩の介助をする医師のサポート役のような認識しかされなくなってしまいました。出産を経験した方でさえ「私のお産に立ち会って下さったお医者さんと看護婦さん」というのですから…。

以前、行政関係の方々に保健所の母子保健事業のスタッフとして、なぜ助産婦の名が挙げられないかについてご意見を伺った事がありました。その中に「助産婦は母子保健の専門家とはいうけれど、実際は分娩を含む周産期だけしか関わっていないし、助産婦から連想されることは『お産婆さん・分娩介助』でしかない。保健所としては知識や臨床経験は浅いかもしれないけれど、幼・小児期から老人保健、更には精神保健までと、広い範囲で活動できる保健婦のほうがより必要とされるんですよ」という言葉がありました。

その頃には現在のような状況になるとは考えも及ばせませんでした。地域に根差した仕事をしているはずの助産婦が、地域母子保健を担うスタッフの一員として取り上げられないばかりか、地域の女性たちにも忘れされつつあるという状況を私たちはもっと謙虚に受け止め、個人の問題ではなく、職能及び組織全体の問題として考えることが大切だと思うのです。

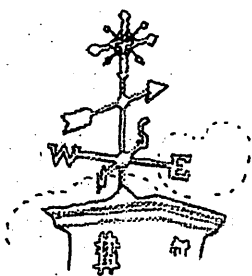
自然なお産や母乳育児の大切さに気付いた母親や、父親パワーが各地で様々な取組を始められています。行政の画一的で柔軟性に乏しい対策や対応に、業を煮やした人々が既に動き始

めているこのときに、専門家を自負する私たち助産婦が対岸の火事のような見物をしていては、現状すら変える事ができません。

かつての助産婦・お産婆さんではなく「近代科学に裏付けられた知識や技術を持って、周産期からライフサイクル全体の支援ができる助産婦」として、新たな業績を積み上げる事を考えなければ、分娩介助者としてのだけの助産婦ではいつか自然消滅してしまいますし、

若い助産婦にとっては魅力のない存在になってしまいます。

そして行政の委託を受けて新生児訪問などを細々と行うのではなく、もっと積極的に助産婦が主体となった事業を行政と連携して行い、地域の母子保健事業を担って行くことができるような方向に私たち個人が動き、組織としての助産婦会や助産学会にはそれをサポートして欲しいと考えるのです。



母子保健・助産婦教育・助産婦業務に関連する諸般の動向



社団法人 日本助産婦会
事務局長 岡本喜代子

母子保健の最近の動向について、2～3紹介したい。

1. 平成9年度母子保健対策予算(案)内示される

平成8年12月21日(土)に、自民党看護問題小委員会において、平成9年度看護関係予算の内示があり、その中で母子保健対策予算(案)を表1に示す。特に3)の子どもの心の健康づくり対策が新規事業である。虐待・いじめ対策等心の問題への支援が本格的に開始されることになる。市町村事業であり、各市町村の可能な助産婦会あたりで、取り組めたらと考えている。4)産後ケア事業に対しては、予算額とした金額が示されておらず、計上されていないように見えるが、他のメニューの中に包含されているため、平成8年度は表2のように受諾市町村が増加し、充実してきている。

2. 助産士問題について

平成8年12月17日ついで、婦人少年問題審議会人見康子会長から労働大臣岡野裕あてに、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保のための法的整備について(建議)特に関連のある箇所を抜粋したのが表3である。(社)日本助産婦会ではこの男子への資格拡大に関して、サービスの受け手の母親の意見を尊重する立場から、現在調査を実施中である。

3. 第18回母子保健奨励賞

第18回(平成8年度)母子保健奨励賞(母子保健功労顕彰会主催)に、助産婦界からは岡部佐千子氏(岡部助産院)と江戸由美子氏(横浜市)の2氏が受賞、平成8年11月20日、東京の全社協・灘尾ホールにおいて授賞式が行われた。

表1 平成9年度母子保健対策予算(案)

事 項	8 年 度 予 算 額 A	9 年 度 予 定 額 B	差 引 増△減額 B-A	摘 要
1) 生涯を通じた女性の健康 支援事業	千円 23,947	千円 36,444	千円 12,497	女性健康支援事業 ・か所数 5か所→10か所 不妊専門相談センター事業 ・か所数 5か所→10か所
2) 母子保健訪問指導事業	423,441	401,833	△21,608	・件数 854,706件→849,767件
3) 子どもの心の健康づくり 対策 ㊦	0	120,916	120,916	・か所数 0→71か所 ・事業内容 心の健康づくり推進費 出産母子生活支援事業 虐待・いじめ対策支援事業
4) 産後ケア事業	-	-	-	育児等健康支援事業のメニュー -事業(厚生保険特別会計児童 手当勘定)

表2 平成8年度「産後ケア事業」受諾市町村

No.	市 町 村 名	No.	市 町 村 名	No.	市 町 村 名
1	岩手県 盛岡市	11	静岡県 清水市	21	鳥取県 境港市
2	宮城県 塩竈市	12	静岡県 掛川市	22	徳島県 板野郡
3	秋田県 秋田市	13	静岡県 富士宮市	23	宮崎県 日南市
4	群馬県 太田市	14	和歌山県 田辺市	24	宮崎県 都城市
5	群馬県 大泉市	15	和歌山県 中辺路町	25	鹿児島県 鹿児島市
6	茨城県 伊奈町	16	和歌山県 大塔村	26	沖縄県 沖縄市
7	山梨県 牧丘町	17	和歌山県 上富田町	27	沖縄県 那覇市
8	新潟県 新潟市	18	奈良県 大和高田市	28	沖縄県 読谷村
9	福井県 敦賀市	19	岡山県 鴨方町		
10	静岡県 静岡市	20	岡山県 笠岡町		

表3

3 一定の職種・職務について女性のみを募集、配置する等、女性のみを対象として又は女性を有利に取り扱うものとして実施される措置のうち、女性の職域の固定化や男女の職務分離をもたらす弊害が認められるものについては、女性に対する差別に当たることとするが適当である。

女性に対する差別に当たる措置の範囲については、今後引き続き議論を深める。

第9回日本助産学会ワークショップの開催について

日本助産学会理事長 近藤 潤子
 学術振興委員長 竹内 美恵子

日本助産学会第9回のワークショップは、山口県において2月22日(土)下記の要領で開催致します。

テーマは、「助産実践研究の実際」と致しました。参加される皆様には、助産実践における問題をご持参頂き、それらの問題をどのように研究テーマとして発展させるか、研究過程の学習を各グループ別ですすめて頂きます。実践の場での問題、研究上の問題をお持ちの方々のご参加を歓迎致します。

記

▼日 時： 平成9年2月22日(土) 9時～16時00分
 ▼場 所： 山口県立大学看護学部
 山口県山口市桜島3の2の1 Ⅷ 0839-28-0211

ワークショップ・プログラム

全体テーマ 助産実践研究の実際

日程

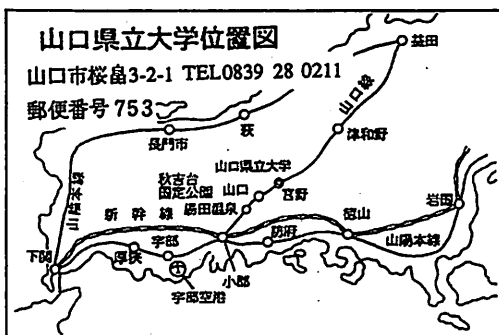
受け付け	9時30分開始	
基調講演	実践研究のすすめ方	10:00～11:00
主旨説明		11:00
ワークショップ(グループ別)		11:05
昼 食		12:00各グループ別で時間を設定
ワークショップ(グループ別)		13:00～15:30
全体討議		15:40～16:30
閉 会		16:30

▼お申し込み方法

(1) TEL、FAX並びに郵便で下記にお申し込み下さい。

〒770 徳島市蔵本町3丁目18-15
 徳島大学医療技術短期大学助産学特別専攻科
 日本助産学会学術振興会事務局 竹内美恵子
 TEL(0886) 33-7405
 FAX(0886) 31-9612

(2) 参加費は、6,000円 資料代その他1,000円を現金書留でご送付下さい。参加者は、1グループ6名です。定員30名です。定員になり次第締め切らせていただきます。ご了承下さい。



~~~~~ ICMからの便り ~~~~~

【 ICMセーフマザーフード（母性保健）基金の募集について 】

ICM セーフマザーフード（母性保健）基金運用規定については、1996年5月オスロの評議会にて採択されました。基金運用規定については、下記に掲載いたします。ICMが本基金の目的とする活動を行うには、本基金を発展させ持続させることが必定です。ICMでは加盟団体の寄付は明細に記録し、基金の使用に際しては寄付者の指示に従います。

次の本基金の用途は、1998年2～3月にインドのニューデリーで開催予定のICM執行委員会と連携して行われる「セーフマザーフード（母性保健）ワークショップ/シンポジウム」に活用する予定です。その際に、妊産婦及び新生児死亡率の高いインドとインド亜大陸の周辺の国々から助産婦を招待する計画です。

上記の基金募集が本学会にもきましたので、1月の理事会で検討し、下記の要領で募金いたすことになりました。募金をお願いいたします。

なおICMでは、本基金について「国際助産婦の日」「いいお産の日」「学術講演会」等の収益金や、総会時の募金、個人の寄付など、幅広い基金を期待しております。本年行われる全国各地でのイベントにおいては、是非ご協力下さい。（No.23号に振込用紙を同封します。）

セーフマザーフード（母性保健）基金運用規定

目的：世界で妊産婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産の知識の発展を支援する。

提供の計画：大会前ワークショップへの助産婦の参加を支援する。

次回大会と関連して指定の助産婦学校へ教育器材を提供するため、加盟団体からの推薦を呼び掛ける。

過去の大会前ワークショップの結果としての活動のフォローアップを支援する。  
教育器材を提供する。

委員会の選定：理事長

追加の資金提供者：助産婦の日活動からの募金

加盟団体および個人の寄付

ICMのワークショップ、会議、大会における募金



## 第11回日本助産学会学術集会開催のご案内 (第3報)

第11回日本助産学会学術集會を、メインテーマ「21世紀へ贈ろう—助産の新たな実践・知と技と創造—」のもとに下記の通り開催いたします。また、ワークショップには日本助産学会の「今後10年間の助産婦の達成課題」よりテーマを設定致しました。皆さまのご参加をお待ちしております。

日本助産学会理事長 近藤 侘子

学術集會会長 竹内美恵子

(徳島大学医療技術短期大学部専攻科)

1. 期 日 1997年3月22日(土)～23日(日)

2. 会 場 徳島県郷土文化会館 (徳島市藍場町2丁目14番地 電話0886-22-8121 FAX0886-22-8123)

## 3. プログラム

| 日程概略         |                 | 13:00    | 14:30                                       | 17:00             | 17:30 | 20:00  |
|--------------|-----------------|----------|---------------------------------------------|-------------------|-------|--------|
| 3月22日<br>(土) | 理事会・評議会         | 受付       | 教育講演                                        | ワークショップ<br>(7テーマ) |       | *懇親会   |
| 時分           | 9:00 9:30 10:00 | 12:30    | 13:30                                       | 14:30             |       |        |
| 3月23日<br>(日) | 受付              | 会長<br>講演 | 一般口演:36題<br>示説<br>(ビデオ:2題・ポスター11題)<br>(7会場) | 昼食                | 総会    | シンポジウム |

\*懇親会は3月22日(第1日目)に阿波観光ホテルにおいて開催いたします。

第1日目(3月22日) 13:00～17:00

\*教育講演:「あなたならどうしますか?—助産実践と倫理—」

演者: J.E.Thompson (ペンシルヴァニア大学教授, ICM副理事長)

座長: 日本助産学会理事長 近藤侘子 (札幌医科大学保健医療学部)

\*ワークショップ:

【テーマ1】 実践と研究: 助産実践における倫理上の諸問題

コーディネータ: 松本八重子 (茨城県立医療大学)

【テーマ2】 実践と研究: 新人助産婦の分娩期のケア能力の問題と現任教育

コーディネータ: 加藤尚英 (杏林大学保健学部)

【テーマ3】 実践と研究: 助産診断: 妊娠・分娩期の診断と用語の統一

コーディネータ: 青木康子 (川崎市立看護短期大学)

【テーマ4】 教育と研究: 助産の伝承とその解明

コーディネータ: 藤田八千代 (昭和大学医療技術短期大学)

【テーマ5】 教育と研究: 助産ケアの継続性

—その戦略と結果の評価(質の評価)—

コーディネータ: 宮里 和子 (北里大学看護学部)

【テーマ6】 教育・研究・実践: マルチメディアと助産活動

—インターネットを活用してのネットワークづくり(演習)—

コーディネータ: 桑原 章 (徳島大学医学部産婦人科)

吉永哲哉 (徳島大学工学部)

【テーマ7】 実践と研究: パースセンターを起こそう!

コーディネータ: 毛利多恵子 (聖路加看護大学)

☆ご希望のワークショップの参加は事前にお申し込み下さい。

☆テーマ6: マルチメディアと助産活動は定員になり次第締め切りますので申し込みは、

お問い合わせの上、お申し込みください。

第2日目(3月23日) 9:30～17:00

\*会長講演:「助産活動の創造と発展へのチャレンジ」

演者: 竹内美恵子 (徳島大学医療技術短期大学部)

座長: 平澤英恵子 (日本赤十字看護大学)

\*シンポジウム:「リプロダクティブ・ヘルス/ライツと助産実践

—女性と家族と共に起こそう社会的活動を—

座長: 堀内 成子 (聖路加看護大学)

浅野水器子 (徳島大学医学部付属病院看護部長)

シンポジスト: (基調講演) 医師の立場から 青野敏博 (徳島大学医学部産科婦人科学教室教授)

評論家の立場から 交渉中

女性の立場から 市場恵子 (ウィメンズセンター岡山)

助産婦の立場から 鈴井江三子 (川崎医療福祉大学)

☆学術集會はどなたでもご参加いただけます。

本会に入会されていない方々のご参加を歓迎いたします。

## 1. 学術集会参加・懇親会参加について

- 1) 参加資格：会員，非会員に関わらずご参加できます。
- 2) 参加費（会員・非会員とも）  
学術集会参加費：7,000円（1997年1月20日以降は8,000円）  
懇親会参加費：5,000円
- 3) 学術集会・懇親会の参加申し込み方法  
参加を希望される方は、参加費を下記に振り込んで下さい。  
郵便振込用紙は、お一人1枚を使用してお申し込み下さい。1枚で2人以上の申込みをされますと、事務局で参加者の確認ができません。  
なお、年会費の申込みはできません。お間違いのないようお願い致します。

郵便振替口座：01600-7-6927

口座名称：第11回日本助産学会学術集会

\*ワークショップは7つのテーマから選んで参加して頂きます。

- ・参加希望のワークショップをあらかじめ振込用紙の通信欄に第1～第3希望までご記入下さい。
- ・「ワークショップ6：マルチメディアと助産活動」はMacintoshを使っているの演習ですので、定員になり次第締め切らせていただきます。期限近いお申し込みは事務局にお問い合わせの上、お申し込み下さい。

\*懇親会参加・昼食ご希望の方は振込用紙に「懇親会費」，「昼食代」とお書き添えください。

\*参加申し込みされた方には、「集録」を事前にお送りする予定です。1月20日以降に振り込みされた方は、必ず振込票をご持参下さい。

【なお、宿泊ホテル、航空券、JR座席指定券については、日本旅行が担当いたします。追って旅行社からご通知させていただきます。】

## 2. 昼食・託児について

### 1) 昼食申込み

昼食用お弁当をご希望の方は、あらかじめ学術集会参加費と同時にお申し込み下さい。1食1,000円、昼食券は事前にお渡しいたしますので、当日その昼食券とお弁当をお引き換え下さい。

なお、昼食用お弁当のご用意は3月23日（日）のみです。

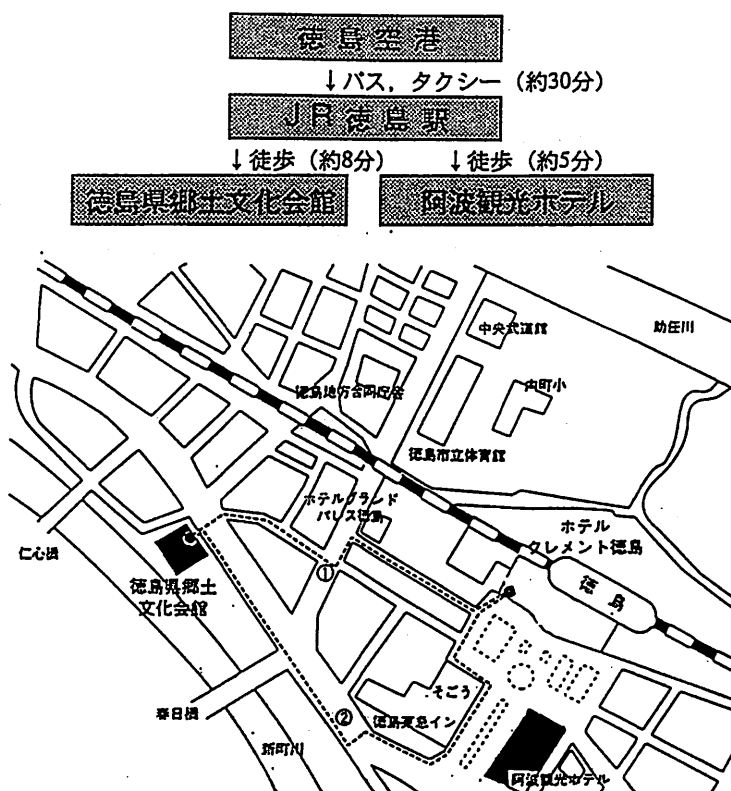
### 2) 託児申込み

託児のご希望のある方は事前にハガキにてお申し込み下さい（託児対象：生後3ヶ月～6歳未満）。費用は、1日1,000円となっております（当日お支払いください）。保護者のお名前、お子様のお名前、人数、年齢（月齢）、ご連絡先、希望日、お子様の託児上の留意事項（アトピーなど）をご記入の上、ハガキで下記事務局までお申し込み下さい。

3月22日13：00～17：00 ￥500      3月23日9：30～17：00 ￥1000

- (1) お子様の健康管理  
 託児をされるお子様は、保護者の責任に於いて健康管理に十分注意して下さい。  
 学会当日は、お子様の体調が不調の場合はお引き受け致しかねますのでご了承下さい。
- (2) 会場で準備できる物品  
 学会会場では、湯茶のみ準備致します。その他お子様に必要と思われるものは各自でご用意下さるようお願いいたします。(おむつ・飲食物・着替えなど)

### 3. 学会・懇親会会場へのご案内



徳島県郷土文化会館 〒770徳島市藍場町2-14 TEL0886-22-8121 Fax0886-22-8123  
 阿波観光ホテル 〒770 徳島市一番町3-16-3 TEL0886-22-5161

### 4. 連絡先

〒770 徳島市蔵本町3丁目18-15  
 徳島大学医療技術短期大学部専攻科内  
 第11回日本助産学会学術集会事務局  
 TEL 0886-33-7405 FAX 0886-31-9612 E-Mail:takeuchi@medsci.tokushima-u.ac.jp



第11回日本助産学会総会開催のお知らせ

会 員 各 位

第11回日本助産学会総会を下記のとおり開催いたします。万障お繰り合わせのうえご出席下さいますよう、ご案内いたします。

日本助産学会 理事長 近 藤 潤 子

記

1. 日 時：1997年3月23日(日) 13時30分～14時30分
2. 会 場：徳島郷土文化会館 4階 大会議室  
〒770 徳島市藍場町2丁目14番地  
TEL 0886-22-8121
3. プログラム：1) 平成8年度活動報告、収支決算報告  
2) 平成9年度事業計画、収支予算案審議

\*当日は、13時20分迄に指定された学会員席に着席下さい。

\*当日受付に学会本部のコーナーを設けて、平成9年度会費を受付、入会案内の配布などを致します。ご利用下さい。

第11回評議員会開催のお知らせ

評 議 員 各 位

第11回評議員会を下記のように開催いたしますので、多事他端の折りではありますが出席下さいますよう、ご案内いたします。

日本助産学会 理事長 近 藤 潤 子

記

1. 日 時：1997年3月22日(土) 11時15分～12時30分
2. 会 場：阿波観光ホテル 4階 ダイヤモンドパレス  
〒770 徳島市一番町3丁目16番9号  
TEL 0886-22-5161
3. プログラム：1) 平成8年度活動報告、収支決算報告  
2) 平成9年度事業計画、収支予算案審議  
3) 第13回日本助産学会学術集會会長選出  
4) 総会開催と提案事項について

□□□□□□□□□□□□□□ □ あんない □□□□□□□□□□□□□□

第11回日本助産学会 プレコンgress・ミーティング

生かし合い - 自分育ててしていますか -

主催：よいお産を考える会 代表 堀内成子  
お産の学校 代表 杉山次子

人はひとりでは生きてゆけない、多くの異なる考え方や価値観をもつ人々と暮らすことが豊かな時を創り出すと考えます。子育ても、両親や家族だけでなく、目に見える社会と目に見えない社会の中で育まれています。社会の小さな単位である職場の中でも、自分を十分に発揮して、生き生きと仕事をしていますか。自分の隣の人も生き生きと仕事をしていますか。女性とエンパワーメントが叫ばれる中、「力をつけていく、自分のことは自分です」自分を生かすことは、顔の違う隣の人も生かすことにつながりませんか。

四国徳島での第11回日本助産学会の前に、プレコンgress・ミーティングを企画しました。「生かし合い-自分育ててしていますか-」をメインテーマとして、話題提供者からの報告に続き、グループでのフリートーキングを持ちたいと思います。なごやかな雰囲気の中で、白熱した討論や優しいふれ合いを通じて、知的・体験的交流をしようではありませんか。たくさんの方々の参加をお待ち申し上げます。

【とき】 1997年3月22日(土) 10:00~12:00

【場所】 徳島県郷土文化会館 大会議室

【プログラム】

- 9:30 受付
- 10:00 オープニング セッション  
話題提供 池邊 幸恵氏  
『気質人間学 陰と陽の世界から』
- 10:40 フリートーキング
- 11:50 クロージング セッション

申込方法

郵便振り込み  
3000円(資料代、茶菓子代を含む)を下記へお振込み下さい。  
振込用紙の控えは当日資料と引き替えますので必ずご持参下さい。

振込先

東京9-710541 「よいお産を考える会」

申込期限

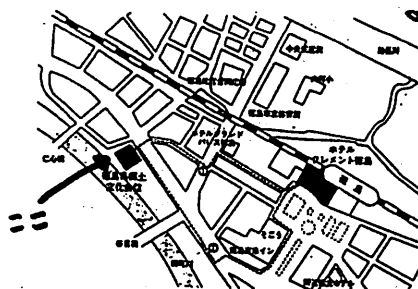
1997年2月20日 150名先着  
(定員になり次第締め切りますので期限近い申込はお問い合わせの上、お申し込み下さい)

お問い合わせ先

FAXかかきでお問い合わせ下さい。  
〒104  
東京都中央区明石町10-1  
聖路加看護大学 母性看護学研究室 佐藤直美(庶務担当)宛  
FAX 03-5565-1626

【会場への案内】

| 運行線       |                    |
|-----------|--------------------|
| 大塚→徳島     | 所要時間30分 便数7便       |
| 東京→徳島     | 所要時間1時間10分 便数5便    |
| 徳島→徳島     | 所要時間1時間15分 便数1便    |
| J 区       |                    |
| 高松から 特急   | 1時間10分             |
| 岡山から 特急   | 2時間20分             |
| 阿波池田から 特急 | 1時間5分              |
| 牟婁から 特急   | 1時間5分              |
| 東         |                    |
| 高松から      | 約1時間50分 R11        |
| 高松から      | 約3時間30分 R32・192    |
| 徳山から      | 約4時間 R192・11・徳島自動車 |
| 室戸から      | 約3時間30分 R55        |



○ 徒歩5分  
上記の○は風通しをよげる窓、◎は特設通路に当たります。



第3回日本助産学会学術講演会

メインテーマ：助産とその責任を問う

日時：1997年8月2日(土)  
13時30分～16時30分

会場：東京御茶ノ水・順天堂大学  
有山記念館講堂

問い合わせ先：第3回日本助産学会学術講演会事務局  
〒228 神奈川県相模原市北里2-1-1  
北里大学看護学部 官里和子・島袋香子  
TEL 0427-78-9383  
FAX 0427-78-9383

※お知らせ※

平成9年度も「国際助産婦の日」に向けて、日本看護協会、日本助産婦会、日本助産学会の三者でポスターを作成いたします。日本助産学会ではポスター500枚と、リーフレット5,000枚を印刷いたします。各地区の「国際助産婦の日」の記念行事にポスター、リーフレットの必要な方は、4月上旬までに必要枚数と送付先を記述して事務局に申し込んで下さい。

事務局だより

\*第11回の学術集会は、一般講演の他に全出席者が参加できるワークショップが行われます。参加申込時に忘れなく希望テーマを記入して下さい。将来のあり方検討委員会で10年を目標に立案した達成課題を、ワークショップのテーマに致しております。近未来に向けて会員の皆様で大いにディスカッション致しましょう。

\* ICMセーフマザーフード基金の募集を致します。基金運用の規定をご覧の上、その目的に向けて協力して戴けますよう、募金をお待ちいたしております。助産婦の力で母子保健の向上をめざし、且つ国際的視野で助産婦の活動や、地位の向上を図ってゆきたいものです。



The first part of the paper is devoted to a description of the plant. The plant is a small, upright, herbaceous perennial. It has a thick, horizontal rhizome with several upright stems. The leaves are broad, ovate, and have a prominent midrib. The flowers are small, tubular, and have a distinct two-lipped structure. The fruit is a small, rounded capsule.



The second part of the paper discusses the distribution and ecology of the plant. It is found in a variety of habitats, including open fields, meadows, and along roadsides. The plant is most abundant in areas with moist, well-drained soil. It is a common species in the region and is often collected by amateur botanists.